



農作業メモ

水 稻
田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

出穂期からの水管理

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理をして下さい。出穂期以降は、浅水での間断灌水に切り換えて下さい。

◎病害虫防除

・1回目

水田の約5～6割程度の出穂が確認できる時期に「ビーム・トレボン(スタークル)」の散布をお願いします。

※イモチ病・カメムシ対策です。

・2回目

前回散布から7～10日後に「キラップ」の散布となります。※カメムシ対策です。

注) 散布の際は使用基準を遵守し、飛散等がないよう心がけて下さい。又、散布された際には栽培管理台帳への記入をお願いします。

適期刈り取りの励行について

1穂粒の85% (粒黄化率) 程度黄色く熟れる頃が収穫適期です。茎や葉が緑色であっても粒は黄色くなっている事が多いので、注意が必要です。目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から35日たった頃です。



6月・7月の柑橘園管理

果 樹
白石 一斗
下島営農指導センター
080-1729-1633

1. 病害虫防除

品種	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	散布時期	水1000 当たりの 使用量
温州	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	トランスフォーム フロアブル	2,000倍	6月上旬 ～下旬	50ml
	黒点病	混用 ジマンダイ セン水和剤	400倍		250g
	展着剤	加用 アピオンE	1,000倍		100ml
	ミカンハダニ	ハーベストオイル	150倍	6月中旬 ～下旬	666ml
	ミカンサビダニ	混用 サンマイト 水和剤	3,000倍		33g
	アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピラン SL液剤	4,000倍	7月上旬～ 中旬	25ml
黒点病	混用 ジマンダイ セン水和剤	400倍	250g		
中晩柑	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	トランスフォーム フロアブル	2,000倍	6月上旬 ～下旬	50ml
	黒点病	混用 ジマンダイ セン水和剤	600倍		166g
	展着剤	加用 アピオンE	1,000倍		100ml
	ミカンハダニ	ハーベストオイル	150倍	6月中旬	666ml
	黒点病	ジマンダイセン 水和剤	600倍	6月下旬	166g
	ミカンサビダニ	混用 サンマイト 水和剤	3,000倍		33g
	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	※モスピラン SL液剤	4,000倍	7月中旬	25ml
黒点病	混用 エムダイフ アー水和剤	600倍	166g		
共通	カメムシ	スタークル顆粒 水溶剤	2,000倍	発生時	50g
		MR. ジョーカー 水和剤	2,000倍		50g

2. 施 肥

○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
河内晩柑・清見・甘夏・ パール柑・ボンカン	ニュー熊本果樹2号	6月上旬	5袋
デコボン	ニュー熊本果樹3号	6月上旬	4袋
全品種	新アグリロング28号	7月上旬	5袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈 倍数	備 考
樹勢維持	尿素 又は 神協スピリッツ 又は アミノジューシー N14	500倍	新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。
緑化 促進	葉面マグ	200倍	
新梢の充実 果皮強化 対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・デコボン等

4. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけぼの・早生	7月中旬～8月中旬

5. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢低下樹には使用を控えて下さい。
 ※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤 1,000倍を散布。(6月中旬～下旬)
 ※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル 4,000倍も使用可能です。(7月)

野菜



甘長とうがらし今後の管理



野菜

山下 伸一
下島営農指導センター
080-1729-1630

追肥…収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a当たり14～20kg
(10～14日の目安)
又は、液肥を500倍かん水する。

かん水…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなることがあり、曲がり果の原因になる。

整枝…主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。
※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果…曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40～50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cmぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。

(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策…スタークル顆粒水溶剤 2000倍

前日まで 2回 スリップス

アフーム乳剤 2000倍

7日前まで 2回 オオタバコガ

モスピラン水溶剤 8000倍

前日まで 2回 アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。

(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を500～1000倍で散布する。

白絹病対策…リゾレックス水和剤

1000倍 前日まで 2回

畜産



肉用牛の暑熱対策について



畜産

井上 正一
繁殖牛供給センター
080-1729-1626

和牛繁殖経営では受胎率の下がる暑熱期の繁殖管理をどのように乗り切るかが重要です。そのためには、夏場であってもしっかりと種付けできる飼養管理を心掛けましょう。

1. 快適環境とは

快適温度域を超え気温が上昇すると、体温の上昇を防ぐため呼吸・発汗が増えるため要注意です。

「快適：気温15～25℃」体温維持のエネルギーが最小限快適に過ごせる環境

「暑い：気温26～30℃」体温調整できる体温限界

「苦しい：気温30℃以上」食欲が減退し、繁殖障害が起こる

2. 畜舎内の暑熱対策

気温・湿度を下げ、風を増やして体温調整しやすい環境作りをしましょう。

- ①屋根 寒冷紗の設置・散水・反射資材(石灰等の塗布)
- ②牛舎内 遮光ネット・送風機の設置・細霧散布
- ③管理 十分な飲水の確保・腐敗防止のため残餌掃除

3. 暑熱による影響

食欲減退(体温上昇の影響)

・ルーメンの機能低下で食欲減退

ルーメン内で粗飼料が分解されて生じる発酵熱で

体温上昇してしまうので自ら制御してしまう

- ・選び食いでルーメンアシドーシスの危険性大
ルーメンに滞留しやすい粗飼料より分解が早い配合飼料を選び食いし、PHが急に酸性に傾く。
- ・栄養障害による繁殖障害
体温上昇による栄養障害はホルモン分泌を乱し、繁殖微弱や卵胞腫腫排卵停滞をひき起こす。

4. 飼料の食い込み改善

- ・給餌方法の変更(夜間給餌・1回分を数回に分けて給餌)
- ・粗飼料細断(2～3cm程度)配合飼料と混合して、ルーメン内滞留時間の短縮
- ・飼料の栄養価を高める(暑熱時、養分要求量が1割程度増加する)
- ・炭酸水素ナトリウム(重曹)の給与(ルーメンのPHを安定させる)

繁殖牛の受胎率は9～11月に低下します。これは気温による暑熱の影響が2ヶ月先の繁殖性まで影響するためです。(卵胞が原始卵胞が成熟するためは2～3ヶ月かかり、暑熱による影響が大きい)このため、夏場に十分な暑熱対策を行うことが繁殖成績の向上に繋がりますので、上記の事に注意され飼育管理に努めて下さい。